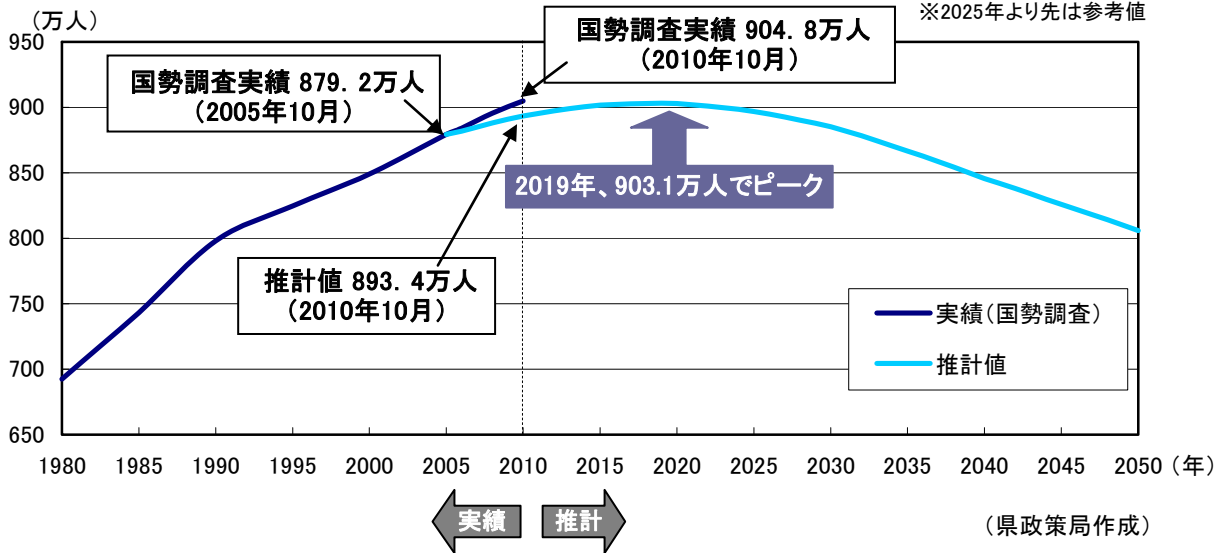


本県の人口動向について

1 総人口

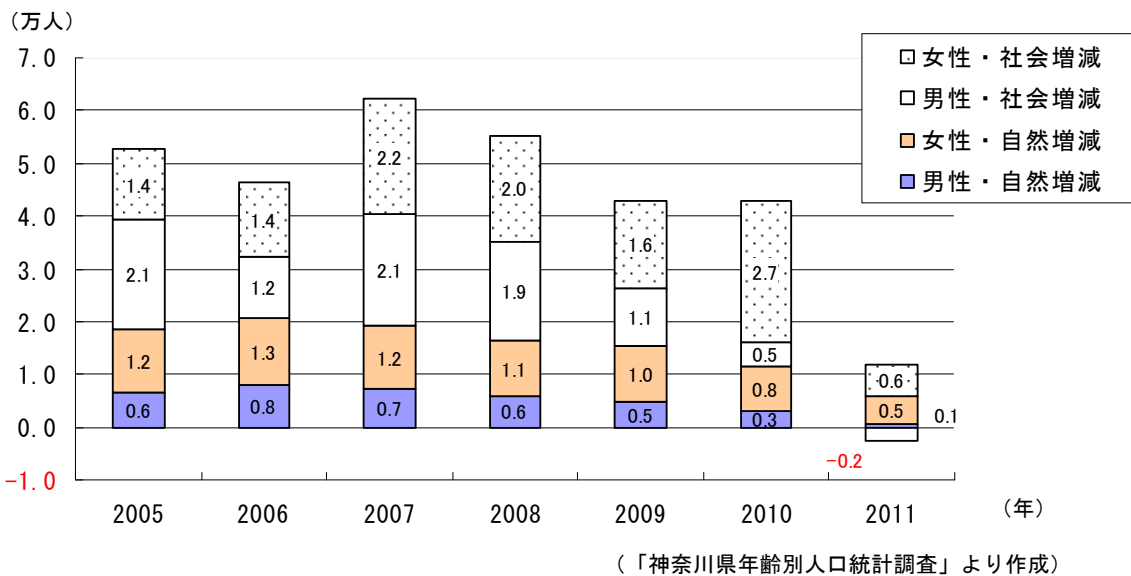
(1) 神奈川の人口



- ・ 出生率は、日本の将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)の出生率をもとに、神奈川の出生率を設定。
- ・ この推計は、純移動(神奈川への転入人口から神奈川からの転出人口を引いたもの)の程度に応じて高位・中位・低位の3つのケースを設定したもののうち、中位のケースを示した。

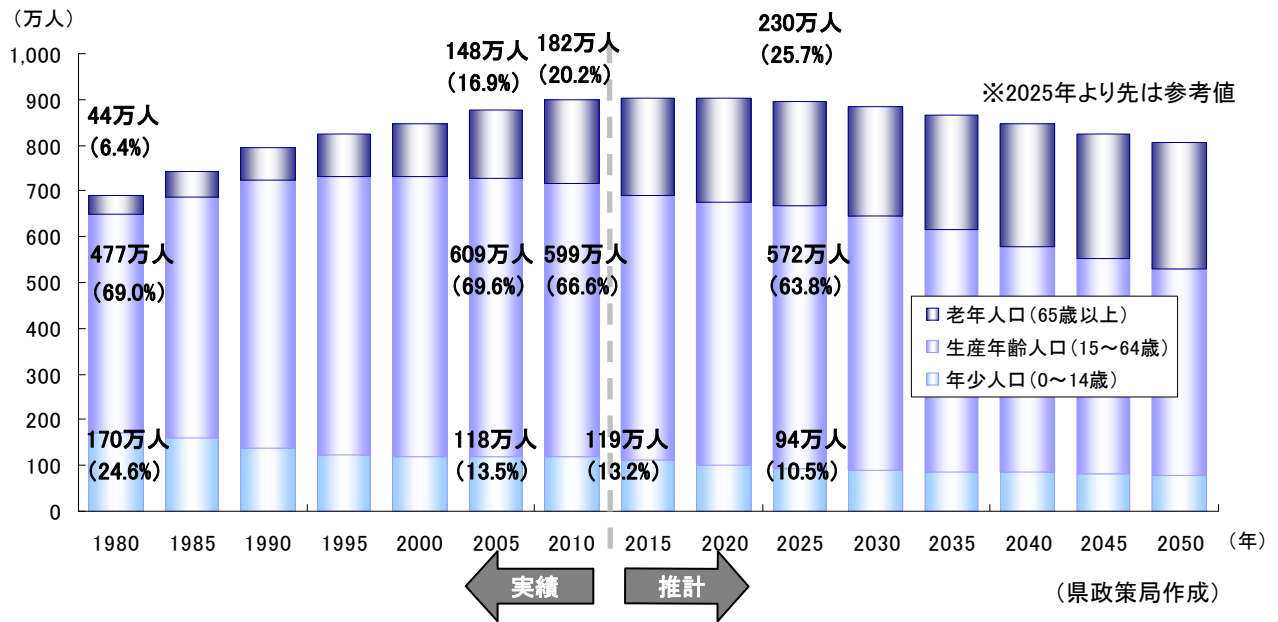
- ・ 県の人口推計では、2019(平成31)年の903.1万人をピークに人口減少へ転ずると予測。
- ・ 2010(平成22)年10月の国勢調査によると、神奈川の人口は904.8万人となり、人口推計のピークとした2019年の903.1万人をすでに超えている。

(2) 人口増減の内訳(男女別、自然増減・社会増減)



- ・ 2007年以降、男性の自然増・社会増が縮小しており、2011年では、男性が社会減に転じている。
- ・ 女性の社会増は安定的に推移してきたが、2011年は大幅に縮小している。

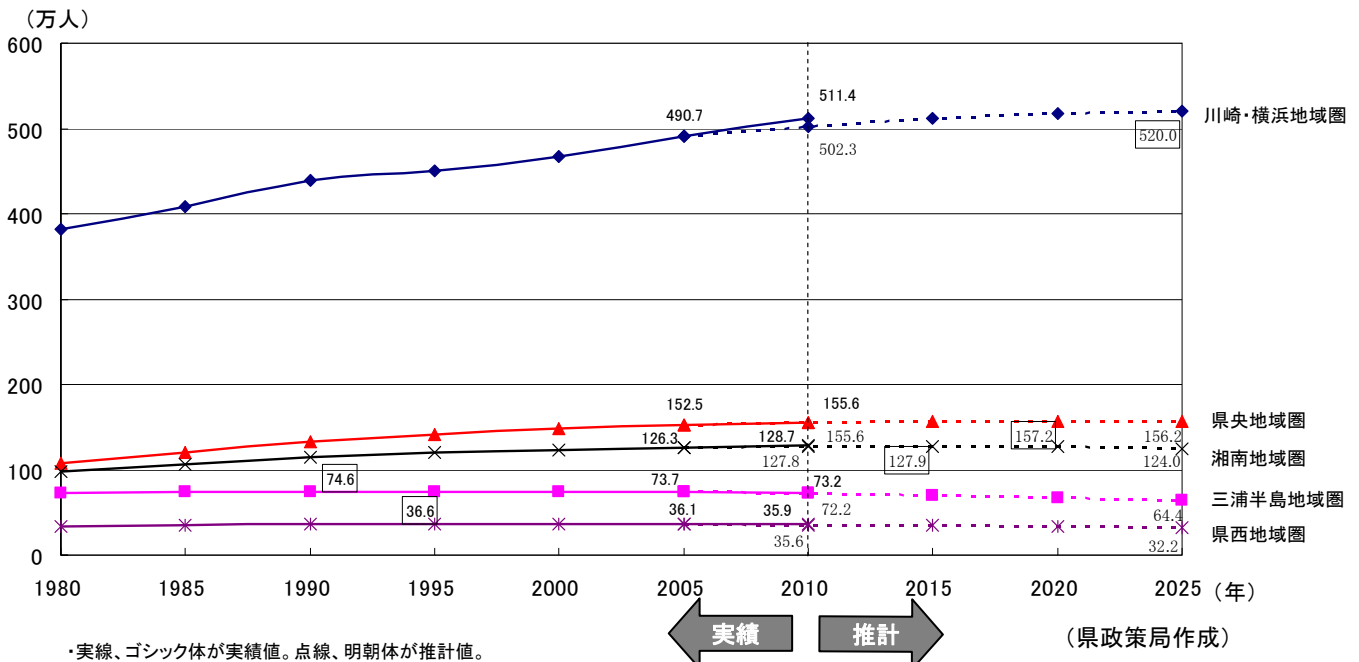
2 年齢3区分別の人口推計



- ・2010年までの実績値は国勢調査結果。
- ・年齢3区分別の割合は、年齢不詳を除いて算出している。

- ・高齢化率 (65歳以上人口の占める割合) は2010 (平成22) 年に20.2%となり、5年間で3.3%の増加。
- ・県の人口推計では、2025年 (平成37年) に26%程度に達すると見込まれており、今後、全国を上回るスピードで超高齢社会へ移行すると予測。

3 地域政策圏別の人口推計



- ・実線、ゴシック体が実績値。点線、明朝体が推計値。
- ・□ は、各地域圏の人口の最大値。
- ・2010年までの実績値は国勢調査結果。

- ・川崎・横浜地域圏、県央地域圏、湘南地域圏では、引き続き人口が増加するものの、三浦半島地域圏や県西地域圏では、人口が減少すると予測。